## 大会規定

(1)球場

バッテリー間は１６ｍ（ジュニア:１４ｍ）、塁間は２３ｍ（ジュニア：２１ｍ）とする。ホームランラインは両翼６０ｍとし、ピッチャープレートを起点に両翼までの直線を半径とした半円のラインとする。ただし、グランドの状況により特別な取り決めを設けるものとする。

(2)使用球

試合球はナイガイベースボールJ号球を使用する。※試合球の支給はございません。

(3)ユニホーム

選手及び監督はチームで統一したものを着用する。

(4)選手集合

選手及び監督は試合開始時刻の３０分前には集合すること。両チームの主将は、メンバー表を本部に提出し、トスにより先攻・後攻を決める。
集合時間に遅刻した場合は、監督は当該試合にベンチ入りできず本部席での待機とする（試合中の当該チームの抗議は認めな

(5)ベンチ及びシートノック

ベンチは抽選番号の若番を１塁側とする。ベンチに入る指導者は、監督・スコアラーを含め６名までとする。また、シートノックは５分以内とし、後攻チームから始める。

(6)試合時間

１時間３０分（ジュニア１時間２０分）、**６回（同５回）**を限度とし、新しい回には入らない。**但し、Aの決勝戦は制限時間2時間、ジュニアの決勝戦は1時間30分とする。**

(7)延長戦

**規定回数を終了するも勝敗が付かない場合は、特別延長戦を行う。**
※特別延長戦（無死満塁方式）について
継続打順とし、前回の最終打者を１塁走者、２・３塁走者を順次前の打者として満塁の状態にして１イニング行い得点の多いチームを勝ちとする。**その後、勝敗がつくまで、繰り返す。投球数制限は継続とします。ジュニア特別ルールの1イニング7得点の攻守交替はおこないません。**

(8)コールドゲーム

降雨、日没等により試合続行が不可能となった場合は４回（ジュニアも同じ）を終了していればコールドゲームは成立する。なお、**得点差によるコールドゲームは、４回（ジュニア3回）１０点差、５回（ジュニア4回）以降７点差をもって成立する。**

**※ジュニア特別ルール**
**１イニング３アウトまたは７得点で攻守交替。（ただし７点目が入った時点でプレーが続いている場合は、そのプレーの終了時までプレー を流す：最大１０得点）**

(9)防具の使用

事故防止のため、捕手はヘルメット・マスク・プロテクター・レガースの着用を、打者、走者及びベースコーチはヘルメットの着用を義務づける。尚、手袋は使用してもよい。

(10)バット

バットは金属製・木製・着色いずれも使用できる。「ビヨンドバット」も使用できる。また、ネクストバッターズサークル内での素振りは禁

(11)スパイク

使用禁止グランドを除き、ポイントスパイクの使用はできる。

(12)投球練習

投手の投球練習は、原則として初回及び投手交代時は７球、次回より３球とする。なお、内野手のボール廻しは禁止する。

(13)抗議権

ルールに関する抗議は監督のみとし、みだりにベンチから出ることのないよう審判員に説明を求めるものとする。

(14)審判

前後試合相互審判４人制とし、１塁側チーム及び勝者チームが主審・２塁塁審を３塁側チーム及び敗者チームが１塁・３塁塁審を担当する。
ただし、決勝戦は連盟審判部が担当する。（２試合の場合：２－１　３試合の場合：３－１－２　４試合の場合：２－１、４－３）

(15)審判員

審判員の服装は各所属連盟の審判服とする。

(16)本部担当

本部から要請があった場合、自チームの試合について本部記録担当を各チーム１名ずつ出し、本部責任者と協力して試合の運営をする。

(17)投球数制限

全日本軟式野球連盟学童用及び全神戸軟式少年野球連盟規約に準じる。
① 70球（ジュニア60球）以内
② 試合中規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
③ ボークに関わらず投球したものは、投球数に数える。
④ タイブレークになった場合、規定投球数以内で投球できる。
⑤ 牽制球や送球とみなされるものは投球数としない。
⑥ 投球数の管理は、本部が行い、イニング終了時に投球数を本部がアナウンスする。
⑦ 本部の投球数に異議がある場合、監督のみ異議申し立てができる。本部と両チームのスコアを確認し、2者が同じ投球数を採用する。3者すべての投球数が合わない場合、本部の投球数を採用する。

(19)ルール

全日本軟式野球連盟学童用及び全神戸軟式少年野球連盟規約に準じる。